

久慈支署におけるニホンジカの状況把握

三陸北部森林管理署久慈支署 業務グループ ○服部 飛鳥
総務グループ 橋本 敏之
地域技術官 鈴木 遥晴

1. はじめに

近年、日本各地において、農林業に対するニホンジカの被害が全国的に問題となっている。平成 26 年度の野生鳥獣による森林被害面積は約 9 千 ha であり、その約 8 割をニホンジカが占めている（林野庁，2015）。また、平成 26 年度の農作物への鳥獣被害面積は約 8 万 ha であり、その約 6 割をニホンジカが占める（農林水産省，2015）など、被害は深刻な状態となっている。

ニホンジカによる被害は、樹皮剥ぎや角とぎ，新芽など枝葉の食害といった樹木への被害や、草本類の食害により下層植生を消失させることで土壌流出を招き、森林の公益的機能を低下させるなど影響は大きい。

岩手県内のニホンジカの分布は、平成 18 年以前は北上山地南部の五葉山周辺といった県南の一部地域であったが、近年生息数が急激に増加し、現在は県内全域に分布域を拡大している（岩手県，2015）。すでに県南地域では被害が顕著となっているが久慈支署を含む県北沿岸地域では被害はほとんどない状況である。しかし、今後さらに生息数が増加することで被害が深刻になることが懸念されることから、いずれ対策が求められることが考えられる。このため、今後ニホンジカの被害防止対策を行っていく上でも、久慈支署管内におけるニホンジカの分布などの現状を把握することが必要だと思い、今回の取組を行った。

2. 取組の方法

ニホンジカの現状を把握するために、以下のような手法で情報を収集した。

(1) 久慈支署管内の情報収集

①「ニホンジカ影響調査・簡易チェックシート」

東北森林管理局が平成 26 年度から実施している局管内国有林を対象とした調査であり、月ごとのニホンジカを目撃・被害情報を森林管理署単位で集計している。今回は久慈支署の平成 26 年度から平成 27 年度のデータを使用した。

②「シカ目撃調査」・「市町村別の被害・捕獲情報」

岩手県がシカ保護管理計画のために収集している調査であり、5km メッシュとしてまとめている。今回は久慈支署管内（洋野町，久慈市，野田村，普代村，岩泉町の安家地区）の平成 21 年度から平成 25 年度のデータを使用した。また、岩手県で取りまとめているニホンジカの被害・捕獲情報の市町村別統計資料から、久慈支署管内市町村（洋野町，久慈市，野田村，普代村）の平成 21 年度から平成 25 年度のデータも使用した。

③久慈支署委嘱の巡視協力員に対しての「アンケート調査」

ニホンジカを目撃した場所、日時、被害情報などについてのアンケートを作成し、久慈支署で委嘱しているボランティア巡視協力員に対して、平成23年から平成27年の過去5年間の情報を収集した。その結果、計39人から回答を得られた。

④ 国有林野事業請負者への聞き取り

今年度の国有林野事業（造林事業・生産事業）の請負業者の方に対して、作業場所で目撃したニホンジカの情報について聞き取りを行った。

⑤ 市町村担当者への聞き取り

久慈支署管内の市町村の鳥獣被害担当者に対して、ニホンジカを目撃・被害・捕獲情報について聞き取りを行った。特に県のデータにない平成26年度から平成27年度の情報を重点的に収集した。

(2) データの集計

(1) で集めたデータを用いて久慈支署管内のニホンジカの分布状況を整理した。目撃情報は市町村別・時期別・年度別にまとめ、5万分の1の管内図を2.5kmメッシュに分けデータを落とし込みで、ニホンジカを目撃した分布図を作成した。また、被害情報についても整理した。

3. 取組の結果

(1) 目撃情報

久慈支署管内のニホンジカを目撃した情報は、平成21年から平成27年までの7年間で、103件の情報が集まった。

① 市町村別の比較

ニホンジカを目撃した場所として久慈支署管内5市町村を比較すると、一番目撃件数が多いのは久慈市となった(図1)。今回集まったデータの半数以上が久慈市に集中しており、その中でも特に山形町で一番多く次いで侍浜町となった。これは、久慈市が久慈支署のなかでの面積割合が一番大きい目撃されるのも多かったためであると考えられる。

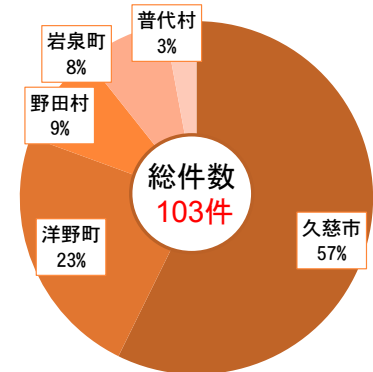


図1. 市町村別の目撃件数の割合

② 時期別の比較

ニホンジカを目撃した時期で一番多くなったのは12月であった。四季で見ると、秋から冬にかけて多く、春から夏にかけて少ない結果となった(図2)。これは、ニホンジカが秋頃から繁殖期に入るため行動範囲が広がったためであると思われる。また、12月に目撃が多くなった理由としては、狩猟期に入り狩猟者による同じ場所での目撃が増えたことも一因として考えられる。

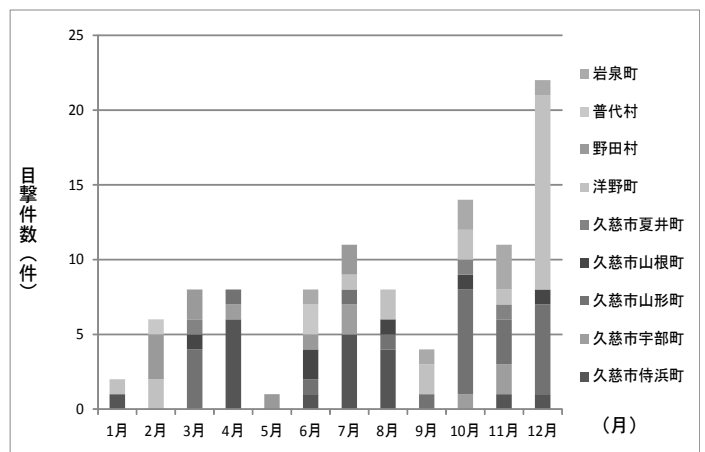


図2. 時期別の目撃件数の比較

③年度別の比較

平成 21 年度から平成 27 年度までのニホンジカの見撃数・捕獲数の推移をみると、見撃数は、平成 24 年度から増加傾向にあり平成 27 年度には前年度の 2 倍になるなど急激に増加していた。捕獲数でも、平成 24 年度以前と比べると平成 25 年度以降は多くなっていた（図 3）。捕獲数が平成 26 年度・平成 27 年度に減少した理由としては、岩手県のデータがなく巡視協力員の方への聞き取りのみのデータとなったためと考えられる。

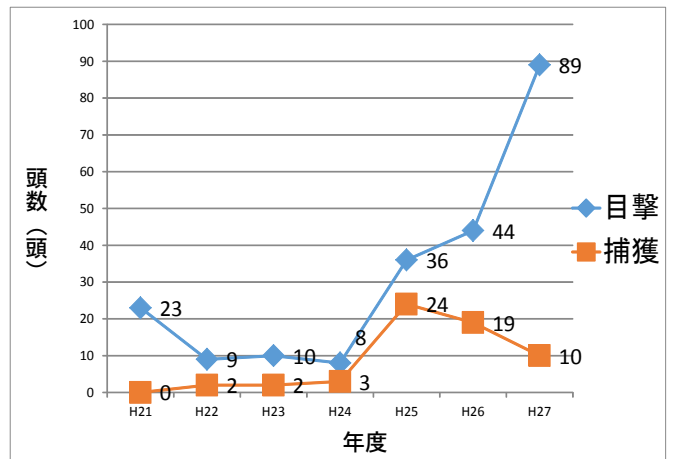


図3. 年度別の見撃・捕獲数の比較

④久慈支署管内のニホンジカの見撃分布図

ニホンジカの見撃情報を年度ごとに久慈支署管内図に 2.5km メッシュでおとした見撃分布図は図 4-1 のようになった。これを見ると道路などの人の入りやすい場所に多く情報が集まり、また、国有林内での見撃数は少ない結果となった。これは、国有林内での情報が平成 26 年度から平成 27 年度のデータ（ニホンジカチェックシート，巡視協力員へのアンケート，請負業者からの見撃情報）のみとなり、情報量が少なかったことが原因であると思われる。

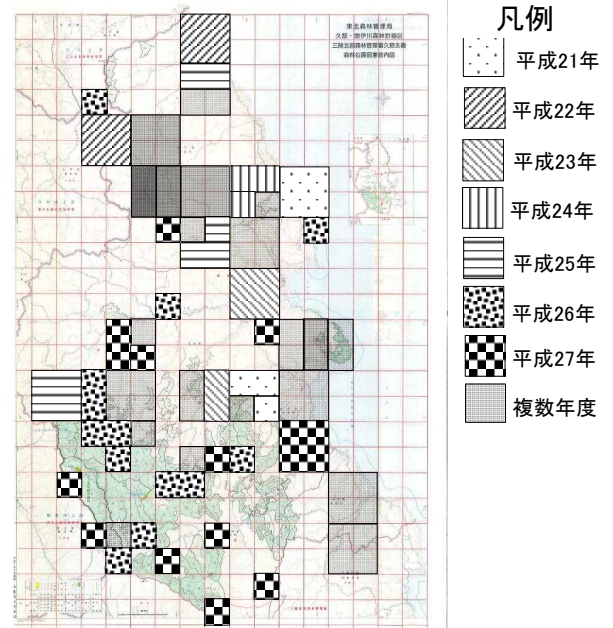


図4-1. 久慈支署のニホンジカ見撃分布図(H21～27)

また、県のデータと久慈支署で調査したデータを比べると、今回の取組では県の調査では拾い切れていなかった地域の情報を収集することができたと思われる（図 4-2，図 4-3）。

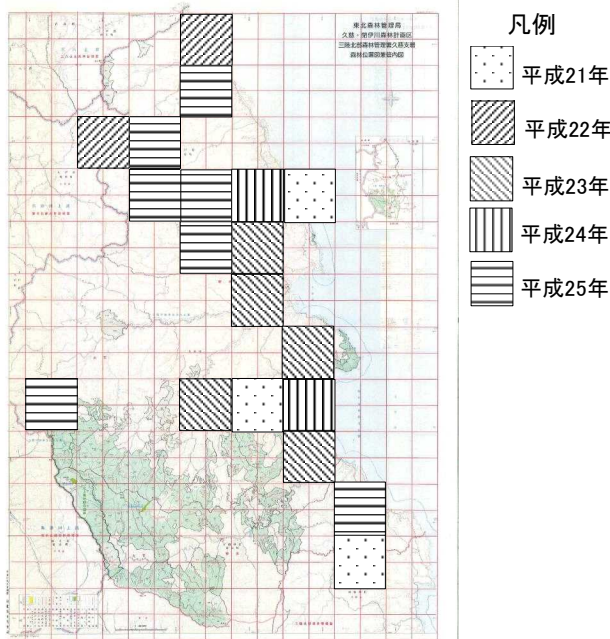


図4-2. 岩手県のシカ目撃情報によるシカ目撃分布 (H21～25)

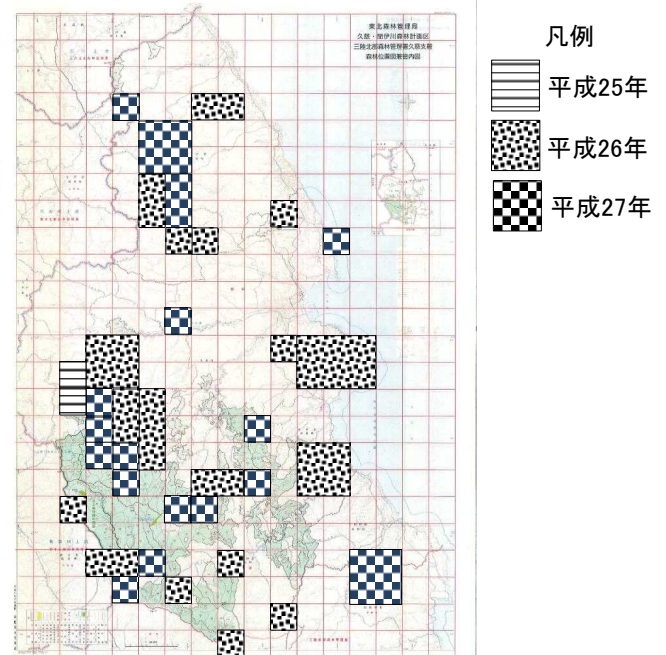


図4-3. 久慈支署での調査によるシカ目撃分布 (H25～27)

(2) 被害情報

久慈支署管内の被害情報は森林被害・農作物被害をあわせて数件確認された。森林被害はいずれも軽度の被害であり、いまのところ大きな被害にはいたっていない。また、農作物被害は野田村で平成23年度・平成24年度のみとなり、このことから久慈支署管内では、被害が出ているが規模は小さいと思われる。

4. 取組の考察

今回の取組の結果から、被害情報が確認されたことや目撃数・捕獲数が年々増加傾向にあることから、久慈支署の現状ではニホンジカの影響が出始めていると考えられる。このため、今回の調査結果を鑑みた秋から冬にかけての目撃数が多い時期を情報収集の重点時期とするなどの、効率的かつ詳細に管内の情報収集をすることが必要だと思われる。

また、今回この取組を実施したことで今までニホンジカの目撃のない地域の情報など新しい情報を収集することができた。県の調査では拾い切れていなかった国有林内でのデータを集めることができ、情報を収集することの大切さ（意義）を改めて実感した。現地の方や現場の方の意見を聞くことで現場の詳細な状況を知ることができたと感じた。

5. 今後の課題と対策

今後は、今回実施した目撃情報の収集を継続し長期的な取組にしていくとともに、情報収集の範囲を拡大し、より多くのデータを集めることでより詳細な情報とすることや、関係者間での情報共有していくことが大切だと感じられた。

今後の対策として、情報収集の場を広げ、意見や要望も含めた多くの情報を収集していくことはもとより、今回作成した久慈支署におけるニホンジカの目撃分布図を久慈支署のホームページで公開するなどして巡視協力員や猟友会の方などに情報を提供し、巡視や狩猟の場で積極的に利用してもらうようにしていきたいと考えている。

さらに、今回の調査結果を契機に継続した取組をすることで被害防止対策の基礎資料にするとともに、久慈支署管内のニホンジカの影響について経過を観察しつつ被害の拡大を防ぐために、関係機関と連携強化を図っていききたいと思う。

・参考文献

- ・林野庁（2015） 野生鳥獣による森林被害
(<http://www.rinya.maff.go.jp/j/hogo/higai/tyouju.html>)
- ・農林水産省（2015） 全国の野生鳥獣による農作物被害状況
- ・岩手県（2015） 第4次シカ管理計画